

日本語の「けど」「が」と中国語の“但是”系の比較研究

——— 翻訳小説を例として ———

陳 美玲

要旨

本稿では、「けど」「が」の用法について、国研の分類を土台にし、「逆接」「前置き」「終助詞的用法」「対比・対照」「時間的推移」の五つの項目を設けた。

この五つの用法について中国語の「転折複句」（中国語では逆接関係を示す複文）を表わす“但是”系(註1)と対照しながら、翻訳小説を使用し、“但是”系が「けど」「が」の各用法とどのように対応するか、その対応度を調査したものである。

中国語の“但是”系には日本語の「けど」「が」のような用法上の多様性はみられない。対応しにくいのは、「前置き」「終助詞的用法」であり、対応しやすいのは「逆接」であるが、これは予想されたほど高くはない、という結果が得られる。

[キーワード] 中国語の転折複句 「けど」「が」 対応 翻訳小説

1 はじめに

「雖然…但是」は「けど」「が」の中国語の訳語として、根強く一般の台湾人学習者に理解されている。しかし、果たしてそれだけなのであろうか。

本稿では「けど」「が」の意味・用法による分類の先行研究を踏まえて、中国語の“但是”系とどのように対応しているかに関して、小説の対訳文を材料として、考察し、明らかにしたいと思う。

2 中国語の複句における“但是”系の位置づけ

2.1 中国語の複句

中国語では句とはsentenceの意味である。複句は複文と呼んでもかまわないが、ただし、定義のされ方は英語とも日本語とも異なっている。(註2)このよう

なことを念頭に置いて、本稿では、以下ことわらないかぎり、中国語の複句を複文と呼ぶことにする。

中国語の複文は相原 (1983:p. 240) に従うと、「二つまたはそれ以上の意味上深いつながりを持ち、かつ互いにはかのいずれの文成分ともならない分句よりなるものである。」というような定義が与えられている。(下線は筆者。)

「いずれの文の文成分ともならない分句(分句とは節clauseと考えてよい)」は中国語の複文の判定の手がかりの一つになるといえる。

複文を構成する文節の間には一定の意味関係が存在する。この関係を示す方法が三つある。(註3)

(1)接続詞や副詞などのいわゆる関連詞(註4)を用いるもの。

1 雖然他年紀大、但是身体很健康(大河内1986より)

(彼は年をとっているが身体は健康だ)

(2)代詞(代名詞のこと)の指示作用を利用するもの。

2 他來不來、那我不知道(同上)

(彼が来るかどうかそれはわたしには分からない)

(3)文節に構文上の特色があるもの。

文節の配列順序から接続関係を探る方法である。

3 吃了飯、我就走。(同上)

(食事をしたら、わたしはすぐに行く)

日常での話しことばでは、(2)(3)の方法が(1)より、むしろ一般的だとよく言われる。

2.2 逆接関係を示す複文——「転折複句」

中国語では逆接関係を表現する複文を転折複句と呼ぶ。「転折複句」とは従属節がある事実を叙述し、主節にはこの事実在即して誰もが納得するような結論は述べられず、むしろ、それとはまったく反対または、部分的に反対の事実を述べる複文のことである。(註5)

「転折複句」は、逆接の強弱の度合または位置によって、三つのパターンに分けられる。(註6)

(1)讓歩転折複句

この複文は前文の事柄を事実として認め、後文ではまったく反対の意味を述べるものである。もっともよく用いる関連詞は「雖然…但是」である。「雖然」を従属節につけて、「但是」を主節につけるのは典型的な使用パターンである。

(例1を参照)。

主節の関連詞を取り除いて、すなわち、「他很健康、雖然年紀很大」「彼は健康そのものだ。ちょっと年をとったが」倒置の形になり、それによって、補足と強調のニュアンスが出てくる。

(2)一般転折複句

従属節には逆接を示す関連詞(雖然など)を提示せず、主節にのみ関連詞(但是、可是など)を用いる。次のような例である。

4「我以前看過這本小説、可是内容記不得了」

「昔、この小説を読んだことがあるが、内容はもう覚えていない。」

(3)軽い転折複句

このような複文は逆接の意味を少ししか持たない。「不過」、「只是」などがよく使われている。

5「日語他也會說、不過發音不很正確。」

「彼は日本語も喋れるが、ただ発音はあまり正確ではない。」

3 「けど」「が」の用法について

3.1 意味・用法による分類の先行研究

まず、「けど」「が」の用法について、一番まとまった形で整理された国語研究所(1951)の『現代語の助詞・助動詞』の分類が挙げられる。

その用法を示してみよう。

- 1) 二つの事柄を並べ挙げる際のつなぎ。共存または単なる時間的推移を表わすこともある。
- 2) 題目・場面などを持ち出し、その題目、またはその場面における事柄の叙述に接続する。そのほか、様々の前置きを表現するのに用いる。
- 3) 内容の衝突する事柄を対比的に結びつけ、前件に拘束されずに後件が存在することを表わす。
- 4) 補充的説明の添加。
- 5) 「が」だけが持つ用法である。推量の助動詞について、その事柄に拘束されない結果を導く条件を表わす。(仮定の逆説条件)

終助詞としては、次のように

- 6) 事実と反対の事柄の実現を願う気持ち。
- 7) はっきり言うのをはばかる気持ち。

8) けいべつ、なげやりの気持ちが込められる場合。

が挙げられている。

国研説のほかに佐久間（1983）の説も挙げられる。分類の仕方は両説ともほとんど同じである。

3.2 国研分類の検討

本稿では、「けど」「が」の用法の分類については上記の国研の説に従った上で、若干の修正を行なった。

まず、対比・対照の用法は逆接から独立させる。それから「共存」の分類の仕方は曖昧なところがあり、文と文を単なるつながりだけのようなものとして扱う説明は納得しがたいということで、「共存」の言い方をとらず、「時間的推移」のような時間の流れの中で二つの事柄を述べているという解釈を重点に置いて、共存の項目を「時間的推移」と「対比・対照」とに分けて論じる。

また、「補充的説明の添加」の例として、次のような文が挙げられている。

6「実はね、ノーベル賞を今度私がもらうことになったらしくて、それもまだはっきり確報を得たわけではないのだから自分でもわからないのだが、二三日まえから新聞社の人やしきりに来るし〜」

（『現代語の助詞・助動詞』より）

しかし、言語行動の主体が言語行動を行なおうとする際に、対人的な配慮や表現内容への配慮を言い訳とか前置きとか注釈などいろいろなニュアンスで明言する(柳1993)という視点によると、「補充的説明の添加」の分類項目は、前置きの中に属してもおかしくないと思われる。

さらに、話しことばでは、頻繁に文末に現れる「けど」「が」は終助詞として認められないものもあるので、「終助詞的用法」のような広義の呼び方を採用することにした。なお本稿で扱う終助詞的用法は、「文末で使われる」という一応の統語的な条件を満たされれば、終助詞的として認めることにする。終助詞に対する定義は、先行研究を拡大して解釈した。

なお、仮定の逆接の用法は本稿では取り扱わない。

以上、国研の用法の分類を土台にして、「共存」「補充的説明の添加」の二つの用法を前述の通りに、修正した後、以下本稿では「けど」「が」の意味・用法の分類が問題になる場合は次の

「逆接」「前置き」「対比・対照」「時間的推移」「終助詞的用法」の五つの項目を用いることにする。

4 「けど」「が」(注7)と“但是”系の比較

4.1 方法

日本の現代小説と台湾の現代小説の日本語訳を用いる。両者の会話文の中で「けど」「が」が使用されている例文のみを拾い、それらの例文に対応する中国語訳文と中国語の小説の原文も同時に抽出し、資料化する。そして①「けど」「が」に相当する“但是”系の有無、②用法別の対応度、という観点から分析する。サンプル小説のリストは以下の通りである。

国籍	タイトル	作者	翻訳者
台湾	窗外	瓊瑤	北川ふう
台湾	さよなら・再見	黄春明	田中宏・福田桂二
日本	灰の中の悪魔	赤川次郎	林敏生
日本	京都・バリ島殺人旅行	山村美紗	朱佩蘭

なお、以下出典表示の際に、それぞれ窓外、再見、悪魔、旅行と略記する。

4.2.1 中国語には“但是”系がないが、日本語訳には「けど」「が」のある例

7 「請問黄君、在西門町有一家珈琲廳、是在地下室的、名字…名字記不清了~」(再見)

「黄さん、西門町にコーヒー店が一軒あったんですが、地下だったなあ、名前は…名前ははっきりしないんだ~」

8 「是梔子花嗎？聞起來有點像玉蘭花」(窓外)

「くちなしの花？少し玉蘭の花に似ているけど」

9 「本来有些問題的、現在聽了這些話、反而那些問題都變得不重要了。~」(再見)

「少しあったんですが、こういうお話を聞いたので、私の聞きたかったことは重要なことでなくなってしまいました。~」

4.2.2 日本語の原文にある「けど」「が」が、中国語では“但是”系とならない例

10 「ところで、さっき、紫舟さんもバリ島に行くようなことを言っていたけど、まさか、幻花さんと行くんじゃないでしょうね？」(斲)

「紫舟剛才說要去峇里島、不至於是和幻花他們同行吧？」

11 「古代裂れって何ですか？裂れというから小さな布だと思ったんですが」

「古代布是什麼？我想像中以為是碎布浬」(斲)

12 「ありえないことじゃないよ。もちろん、考えたくないけどね」(悪魔)

「沒什麼不可能！当然我也不希望往這方面想」

13 「～古代裂れからヒントを得たものや、彼女の古代への幻想から作られたものがおおいらしいけど」(藤)

「～聽說、多半是來自古代布的靈感、和她對古代的幻想而製作的」

14 「古代裂れにはあまり、興味がないですが…」(藤)

「我對古代布不太有興趣」

上の用例をみたら、「けど」「が」と“但是”系とは必ずしも対応していないことが言えるであろう。

4. 3 考察の結果

4. 3. 1 「けど」「が」の用法別に見る対応度

まず、全体の対応状況から見ていきたい。

表1 「けど」「が」の用法別による“但是”系との対応状況

内訳	タイトル	旅行	悪魔	再見	窓外	合計	全体に占める比率 単位(%)
分類項目	対象文例数	276	81	29	67	453	
“但是”系のないもの	前置き	56	17	11	19	103	22.7
	逆接	9	0	4	9	22	4.9
	対比・対照	11	0	1	4	16	3.5
	時間的推移	6	0	5	3	9	2.0
	終助詞的用法	94	33	10	10	142	31.3
“但是”系のあるもの	前置き	22	4	0	1	27	6.0
	逆接	53	11	6	19	89	19.6
	対比・対照	11	1	0	0	12	2.6
	時間的推移	4	0	1	1	5	1.1
	終助詞的用法	11	17	1	1	31	6.8

“但是”系と対応度が低いのは終助詞的用法、前置きで、対応度が一番高いのはやはり逆接である。しかし、逆接が全体の中で占めている比率は、2割に満たない。

個々の用法について、比較してみる。

1 逆接

中国語の原文では行間に逆接関係を読み取れても、“但是”系を使わない場合が多い。特に複雑な論理関係が必要ない日常会話では、この傾向が一層強く見いだされ、これも逆接の比率がそれほど高くないことの一つの要因と考えられる。

2 前置き

「けど」「が」の前置きの用法は“但是”系にほとんど翻訳できない。日本語の従属節に「けど」「が」をつけることによって、前置きとして提示するような文は、中国語に訳すと、「けど」「が」が無視され、その文を伝達する意味内容だけが訳されることがほとんどである。

15 「～この間、幻花さんは、家の玄関を改築したのだけど、そのとき表札を幻花さんのだけにしてしまったから。～」(断)

「～因為前不久他們改建玄関、門牌只寫了幻花的名字～」のような文はその例である。

中国語を日本語に訳するときも同様なことが言える

16 「雁容、前两天、在省立×中教書室的胡先生說是在×中看到妳、妳去做什麼?」(断)

「雁容、数日前、省立×高の胡先生が学校でおまえを見かけたとおっしゃってたけど、学校へなにしに行ったの?」

中国語では、「けど」「が」のような前置きの表現は、どのように現れているかについて、次の例によって、考えてみたい。

17 「○○、a就要放寒假了、你有什麼打算嗎?」

「○○さん、bもうじき冬休みに入るけど、何か予定ある?」

中国語のaの部分は日本語のbの部分に相当する。aの部分は次のように置き換えられる。

「就快要放寒假了」「快要放寒假了」「要放寒假了」「快寒假了」「放寒假」などである。また、話しことばの場合には、ポーズ、語気助詞(注8)などの要素も考慮に入れると、さらにいろいろなバリエーションが見いだせる。

一方、bの部分は、かなり制約されているのであろう。特に動詞を含む場合、変化がより少なくなる。

日本語の話しことばでは、「冬休みに入る。何か予定ある?」のような言い方は、おそらく使われないとと思われる。

前述のことをまとめて考えると、日本語の前置き表現の提示は制約化された形式を用いる。それに対して、中国語の場合は一つの前提あるいは事柄を提示するとき、話し手が表現をかなり自由に選択できるのではないか。

これによって、“但是”系が前置きの機能を持たないことが明らかであろう。

ちなみに、表1には、“但是”系に訳される前置きの用例が6%の比率をしめているが、その大部分は次のように訳すべきではないと思われる文である。

18「～ね、どこかで、お話ししない？」(悪)

「いいけど…一人なの？」

「～我們找個地方談談、好嗎？」

*「好是好、但…妳一個人？」

19「日本から警察の方がいらっしゃるとは聞いていましたけど、まさか狩矢さんが来られるとは思ってませんでしたわ。～」(断)

*「我們聽說要從日本派警察來、但沒有想到會是狩矢先生你。～」

3 終助詞的用法

中国語には終助詞に近い語気助詞と呼ばれるたぐいのものもあるが、接続関係を示す“但是”系を文末に置くことはまずない。(4. 2. 2の例を参照)

ただし、“但是”系の中には2. 2で述べたように倒置の形による補足のニュアンスが出る「讓歩転折複句」や逆接の度合いが弱い「軽い転折複句」などがある。それらの一部が「けど」「が」の終助詞的用法との対応は、

20「え、ケーキ？もう入んない！持ち帰りなら持ってくれるけど」(悪)

「我吃不下了、不過、可以帶回家」

のような例が見いだせる。

一方、4. 2. 2の例の話し手の気持ちや発話態度を表わす文末の「けど」

「が」は、中国語ではほとんど訳すことができないといっても、過言ではない。

4 対比・対照、時間的推移

この二つの用法については、対応度がやや低い傾向が読み取れるが、対象例が少ないこともあり、断言できない。

21「はじめ水上さんは、いまそういうことは考えられないと断ったそうけど、弁護士や弟子の話しを聞いているうちに次第にその気になってきたらしいわ。」(断)

「聽說、開頭水上先生拒絕了、說他目前還不考慮結婚。但後來聽了律師和弟子們的勸告、才漸漸接受。～」

ただし、21の例のように“但是”系があっても、おかしくないが、ないほうがより話しことばらしいという場合がほとんどである。

4. 3. 2 「けど」「が」が“但是”系に与える影響

すでに述べたように中国語の話しことばでは、関連詞(“但是”系など)を使うときの方が使わないときよりもはるかに少ないと考えられる。実際にそうになっているかどうかを立証したい。

今回使ったサンプル小説(中国語の小説と日本語の小説の訳版)を材料として翻訳小説の中の“但是”系の使用率と、中国語の原文小説のそれとの間にはどのような差があるかを調べてみる。

小説の総文数(注9)に対して、“但是”系の出現回数と文に対する出現率をまとめたのが、表2である。

下の表から翻訳文は原語文より“但是”系を多く使う傾向が見られる。もちろん内容によって、何かについて議論するときは、論理関係を示す“但是”系が必要になるが、「さよなら・再見」以外は、そのような場面はあまりない。

「灰の中の悪魔」は比率は「再見」と近いが、実際は例18のような“但是”系をつけない方がすっきりする例が多い。「けど」「が」などの影響で、翻訳小説では“但是”系を必要以上に過剰使用すると考えられる。

【表2】 “但是”系の出現回数表

項目 \ 小説	中国語の原文小説		日本語の翻訳小説	
	窓外	再見	旅行	悪魔
総文数	2,814	646	2,449	2,547
“但是”系 出現回数	131	39	253	173
比率(%)	4.6	6	10.3	6.8
文に対する 出現率%	21.5	16.6	9.6	14.9

4. 3. 3 その他

もう一つ興味深い問題であるが、まず、次の例を見てみよう。

22「我想我永不會這樣愛一個人！不過、我倒希望有人能這樣愛我！」(窓外)

「わたしだったら、絶対一人の人をこんなに愛するなんてできないわ。でも
こんなふうに一人の人から愛されるならいいけど」

23 「代數做它幹什麼？拿我的去抄一抄好了、不過我的已經是再版了、有錯誤概
不負責」(鄧州)

「なんで算数なんかやるのよ。わたしのを写せばいいじゃない。でもわたし
の『再版』だから、まちがっていても責任は負わないけど」

のような補足としての用法がある。

一部の逆接関係を示す“但是”系は、前後対立のような典型的な逆接のみで
はなく、日本語の「ただ」「ただし」のような前文に対する補足や修正とか、
「しかし」「でも」のような前に述べた事柄に対して、さらに別の観点を提起
するというような機能も有する。

岩沢(1985)は、従来「逆接」と言われるものの中には逆接以外の用法として
対比・展開・転換・補足があると述べた。それは「可是」「但是」「不過」に
も当てはめられる。

日本語ではこのように補足を表わすときには接続詞のみ用いることもあるが
「でも～けど。」のような共起の形はより頻繁に現れる。しかし、中国語の
“但是”系と対照して見ると、「でも」に目をうばわれすぎて、「けど」の存
在を見落とす恐れがあるのではないかと考えられる。

ここでは、一部の“但是”系は逆接の用法のほかに補足の用法もあるので、
「けど」「が」の補足の用法にも対応できることがわかる。

5 まとめと今後の課題

中国語の“但是”系の性格が主に三つ挙げられる。

①逆接関係を示すものである。②一部の“但是”系や「讓步轉折複句」の倒
置は逆接の度合が弱くなり、補足、修正のニュアンスが出てくる。③話しこと
ばでは、文の前後の論理関係が誤解されない範囲内で、むしろ“但是”系を使
わないほうが好ましいということである。

「けど」「が」の用法は“但是”系より多く用いられることがすでに明らか
であろう。中国語の“但是”系はあくまでも文と文との逆接関係(その逆接の
度合にかかわらず)を示す語である。それに対して、「けど」「が」は逆接の
ほかに前置きのような平接(注10)もありうるので、それが対応できない部分の
主な理由と思われる。

小説の会話文の対訳例によって、「けど」「が」の認識が“但是”系の訳に片寄りすぎる傾向がある、ということが立証されたものとする。

今後は、台湾人学習者の実際の日本語の発話のデータを収集し、「けど」「が」の運用能力や各用法の習得順序などを考察したい。前述の結果と見比べて、「けど」「が」と中国語の対照をより明らかにして、台湾人学習者を指導する際、活用できる方法を探りたいと考えている。

《注》

- 1 ここの「但是」は中国語の逆接関係を示す関連詞(注4)の一つである。そのようなものはたくさんあるが、本稿では“但是”系を表記して用いる。
- 2 参考文献1による。
- 3 現代中国語の複句において分句の接続関係を示す方法の分類は大河内(1986)による。
- 4 関連詞とは接続機能をもつ語句の総称である。品詞別に分けると、連詞(日本語の接続詞に相当する)、副詞、介詞(前置詞)がある。次に逆接関係を示す関連詞を例として挙げる。
連詞類：【雖然】【但是】【可是】【不過】等
副詞類：【却】【其實】等
- 5 参考文献4『現代中国語文法総覧(下)』による。
- 6 黄成穩『複句』による。
- 7 「けど」は「けれども」「けれど」などの違う語形がある。また「が」との使用場面の差も考えられるが、ここでは丁寧度を問題にしないので、「けど」「が」などの異なる語形をとりあえず同じ語として扱う。
- 8 中国語の語気助詞は日本語の終助詞または、間投詞に相当するようなものである。主な機能は疑問(嗎)、命令・願望(吧)、陳述・肯定(的)、感嘆(啊)、停頓(呢)などがある。
你去嗎？(行きますか?) / 你去吧！(行きなさい)のような例である。
- 9 本論では、文に対する定義は水谷(1985)「内容的には『一つのまとまった思想を表わす』音声的には『音の連続で、文の前後に音の切れ目があり、文の終わりに特殊の音調が加わる』」に従う。なお、中国語の文に対する定義については、中国の文法学者趙元任、朱德熙二氏も同様に音声面から定義を

行なった。

また、小説の会話文では音声の代わりに句読点を判別の基準とする。句点、感嘆（！）、疑問（？）符号をつけると、それを一文と見なす。ただし、次のような「嘸」「好」「是」などの応答詞、呼びかけは除外する。

10 三上(1980:p. 301)による

《参考文献》

- 1 相原茂(1982)「中国語の複句」『講座日本語学11 外国語との対照Ⅱ』
明治書院
- 2 水谷信子(1985)『日英比較話しことばの文法』くろしお出版
- 3 大河内康憲(1986)「中国語の文と句の接続」『日本語学』10-5
- 4 劉月華ら(1988)『現代中国語文法総覧(上)(下)』くろしお出版
- 5 国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞一用法と実例一』秀英出版
- 6 岩沢治美(1985)「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』56号
- 7 黄成穩(1990)『複句』人民教育出版社
- 8 三上章(1980)『現代語法序説』くろしお出版
- 9 杉戸清樹(1993)「言語行動における省略」『日本語学』9-12
- 10 佐久間鼎(1983)『現代日本語法の研究』復刊第一版 くろしお出版

(お茶の水女子大学日本言語文化専攻修士2年)